



11月のおすすめ絵本



深まる秋

「どんぐりころころおやまへかえる だいさくせん」

スギヤマ カナヨ／作

どうしたら、どんぐりをお山にかえせるか、お池の仲間たちが知恵を出し合い…。

「どんぐりころころ」のメロディで、お話がまるごと歌える絵本です。



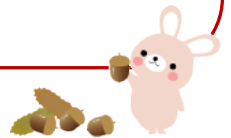
「たったひとつのドングリが」

ローラ・M・シェーファー／文

ドングリこそ、すべての植物と動物の命をつむぐもと—。

たったひとつのドングリが、木に育ち、その木に鳥が巣を作り、落ちた種から花が咲く…。

美しいイラストと簡潔なことばで命の連鎖を描いた絵本です。



「どんぐりぼうや」

高木 さんご／作

お母さんの根本に落ちたどんぐりのぼうや。お母さんとかくれんぼしたり、草の上を転がったりして遊んでいます。

ある時、リスがどんぐりぼうやを見つけ、追いかけてきて…。

短いページのあるしかけ絵本です。



「おいも！」

石津 ちひろ／文

秋の楽しみは、おじいちゃんの畑でやる、おいもほり！

どーこどどこ、おいもはどーこ？

つるをひっぱれ、うんとこどっこい、

よーいしょ。

とびっきりのおいもを、やきいもにして食べよう！



「木の葉つかいはどこいった？」

ビーナ・イラーチェ／作

秋になると木の葉つかいが、やってきます。

長いマフラーをたなびかせ、棒をふって、葉っぱたちにすてきな飛びかたを教えるのです。

でも今年の秋は…。

すがすがしいユーモアがあふれる、イタリア発の新感覚絵本です。



「たからものをみつけた！」

くすのき しげのり／作

リスくんは朝から大忙し。ひとりで集めた木の実を穴にしまっています。どうするのかな？

本当に大切なたからものって、なんだろう。

秋の読み聞かせにぴったりなおはなし絵本です。

